集合論的社会的カテゴリー論の展開

大阪経済大学　　石田　淳

社会的カテゴリーとは，他者（や認知主体自身）を同定し，任意の社会集団へと分類するための，社会的に構築された認知枠組みである．社会的カテゴリーは，日常生活において，ある範囲の人々の間で暗黙のうちに共有され，他者認知のために用いられるという意味において，「エスノ・メソッド」の一種と言えるものである．この種の議論は，シンボリック相互行為論や社会的構築主義，エスノメソドロジーといったミクロな社会的場面における行為・意味に焦点を当てる一連の研究プロジェクトにおいて，繰り返し主題化されてきた．そして，今や「社会学的常識」に登録されていると言っても過言ではない．

しかしながら，これまで社会学の文脈では，社会的カテゴリーの内実を捉えるための厳密な方法はほとんど存在しなかったと言ってもよい．いかにして「社会的に構築されたカテゴリー」を厳密に把握するのか？また，社会的カテゴリーが共有される範囲をどのように測定すればよいのだろうか？　このように問われたとき，それにロジカルに答えることができる研究プログラムは，残念なことにこれまできわめて少なかった．

本報告では，社会的カテゴリーを集合論的にとらえるという，Sacks（1972＝1995）や Fararo（1973＝1980）の先見的な試みの上に，集合論的社会的カテゴリー論を展開する可能性を議論したい．その際，集合論を抽象化したブール代数分析が，社会的カテゴリー把握のための一つの有用な研究手法となることを実例とともに示したい（石田 2007，2016）．

集合論的社会的カテゴリー論の基本的なアイデアは，社会的カテゴリーを用いた他者認知を他者についての「情報縮約過程」であると見なすことにある．このようなアイデアによって，社会的カテゴリーを用いた他者認知は，多元的社会的地位ベクトルからブール値集合（そのカテゴリーに属しているか否かを示す）への写像，つまり定義関数としてモデル化することができる．多元的社会的地位のそれぞれの次元もまたブール変数（ある特性を持っているか否かを示す）であると仮定すると，定義関数は n 次元ブール変数ベクトルをブール値集合へと写像する「ブール関数」となる．ゆえに，社会的カテゴリー関数についてブール代数分析を行い，縮約過程をブール代数式によって表現することによって，人々の抱く社会的カテゴリーの内実を論理演算式で把握することができるのである．こうした数理的な定式化によって，調査設計・計量分析・シミュレーション分析のそれぞれを，共有されたコア理論をもとに統一的に行うことが可能となる．

本報告では，実際の分析例として「日本人」カテゴリーについて取り上げ，調査結果の分析と，エージェント・ベースド・モデルによるシミュレーション分析の可能性を議論したい．

文献

石田淳，2007，「ブール代数分析による社会的カテゴリーの研究――『日本人』カテゴリー認識の分析」『ソシオロジ』52(1): 3-19.

石田淳，2016，「「日本人」の条件――インターネット調査データを用いた社会的カテゴリー分析」投稿中.

Sacks, H., 1972, "An Initial Investigation of the Usability of Conversational Data for Doing Sociology," in D. Sudnow (ed.) *Studies in Social Interaction*, Free Press, New York, pp. 31–74.（＝1995，北澤裕・西阪仰訳，『日常性の解剖学』マルジュ社．）

Fararo, T. J., 1973, Mathematical Sociology: An Introduction to Fundamentals, New York: John Wiley & Sons.（＝1980，西田春彦・安田三郎（監訳），『数理社会学　I・II』紀伊國屋書店．）